

我々歯科技工士にとって質の高い修復物を作製するためには、模型上での技術的作業の研鑽だけではなく口腔内でどのような治療がどのような順序で、またどのような治療方針にのっとって行われているのかを理解する必要がある。口腔内の状態を理解し、把握しなければ何が適切であるか解らずそのような修復物の作製は難しいと考えられるからである。

そのためには歯科医師や歯科衛生士との連携が重要であり、共通の認識をもって修復物の作製を行うことが歯科技工士に求められるのではないだろうか。

私はラボでの経験を経て現在歯科医院に勤務しているが、日常臨床の中からチェアサイドとの連携をどのように行い修復物を作製しているのか、また近年めまぐるしく発展している口腔内スキャナーの臨床実感などお伝えできればと思う。